

神戸産新種 2 種

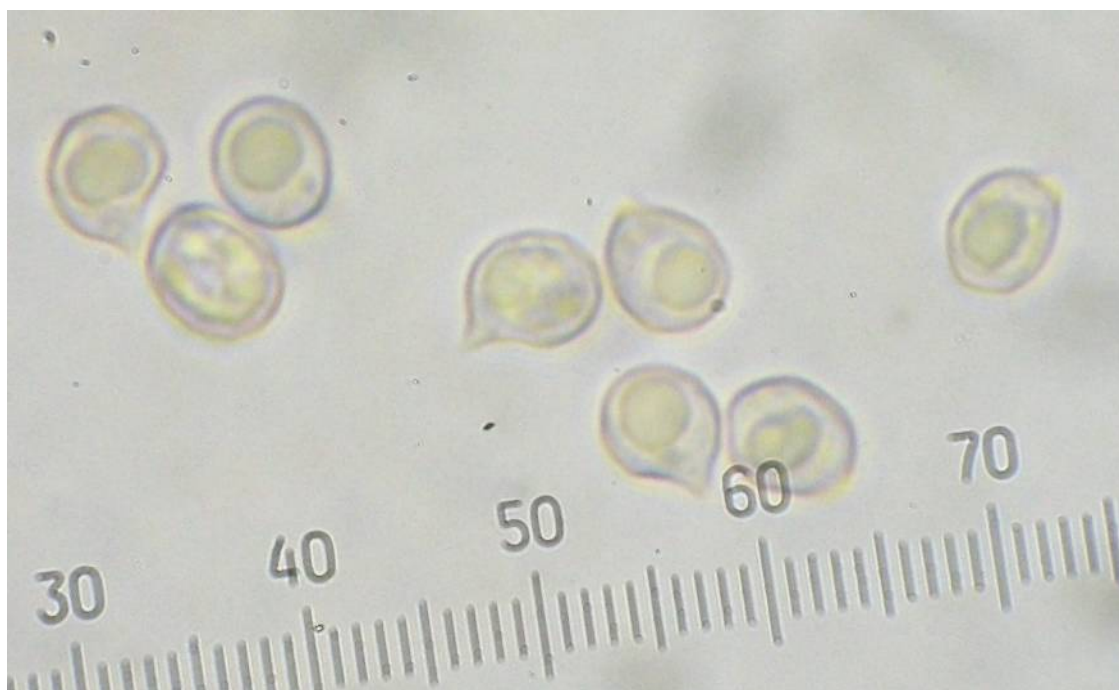
幸徳伸也

定点観察会で採取された 2 種が 2011 年 5 月に新種発表されました。
そのキノコについて報告いたします。

ニカワラッシタケ *Favolaschia gelatina* Har. Takah. & Degawa



ハルノウラベニタケ *Clitopilus vernalis* Har. Takah. & Degawa



孢子

ニカワラッシタケ *Favolaschia gelatina* Har. Takah. & Degawa

(出典 Takahashi, H. & Degawa, Y. 2011. Mycoscience 52(5): 312-318)

定点観察会の記録としては2010年7月の「ニカワアミタケ」です。ニカワアミタケは青木実氏の日本きのこ図版 No.331 に掲載されています。

定点観察会でニカワアミタケと同定したこのキノコを沖縄に在住の高橋春樹氏に送付しました。高橋氏はニカワアミタケには苦味があるが、本種には苦味ないため、別種と考え、ニカワラッシタケとして新種発表されました。

神戸産の標本がホロタイプ（正基準標本）に指定されています。

本種の大きな特徴は

- 肉がゼラチン質である。
- 子実層托が管孔状である
- 苦味がない

キクラゲの仲間以外でゼラチン質のキノコというのは非常に少ないです。そのうえ、子実層托が管孔状である特徴を考えれば、このような特徴を持ったキノコはかなりまれです。

一目見ればニカワラッシタケとすぐに見分けることができます。

ハルノウラベニタケ *Clitopilus vernalis* Har. Takah. & Degawa

(出典 Takahashi, H. & Degawa, Y. 2011. Mycoscience 52(5): 312-318)

定点観察会の記録としては2009年3月の定点の記録「イッポンシメジ属の一種1」、2006年3月4月「ウラベニガサ s p」です。このうち2009年に採取された標本を高橋氏に送付しました。

すると、氏が新種発表予定であったハルノウラベニタケと同一種ということが判明しました。

まだ、新種発表されてなかったことが幸いして、発表された論文にはそのときの標本の情報も記録されています。神戸産の標本はホロタイプではありませんがそれに順ずる標本となっています。

本種の大きな特徴は

- 柄が黄色～橙色を帯びている。
- 胞子は丸いが、やや角がある
- アカマツの腐朽木上から発生する

本種は材上性であり、ヒダが赤みを帯びる点からウラベニガサ属のキノコによく似ています。しかし、本種の胞子は角張り、イッポンシメジ科のキノコであることがわかります。所属としては、ヒガケウラベニタケ属のキノコに分類されるようです。

ニカワラッシタケ、ハルノウラベニタケの詳細な情報は高橋氏の HP でご確認ください
八重山諸島のきのこ <http://www7a.biglobe.ne.jp/~har-takah/>